

☆放課後子ども教室☆

秋も深まり、木々の葉も赤や黄色に衣替え。気温もぐっと下がり、日が暮れるのも日に日に早くなっています。子どもたちも厚手のジャンパーを着てくるようになりました。冬に向かって少しずつ季節が進んでいく寂しさを感じますが、この時期にしか出会えない楽しみも知っている子どもたち。今日も元気に外に駆け出していきます。

小さい秋を探しに学校周辺の散歩に出かけました。ふわふわのススキの穂、色とりどりの葉っぱや野の花、大小さまざまな大きさのキノコ。秋は子どもたちの好奇心をくすぐる素敵なものに出会えます。そして、子どもたちが毎年、楽しみにしているコクワの実を今年もみんなで探しに行きました。見上げた木の上にかくさん実ったコクワを発見。「あった！」と子どもたちの目も輝きます。そして、手の届かないところに生っているコクワの実をどうやって落とすかを考えます。つるをゆすったり、木の棒でたたいたり、「こうすればできるかもしれない」と自分の頭で仮説を立て、実際にやってみる。うまくいかなかったところは修正してもう一度チャレンジする、という学びが遊びの中から生まれています。



実りの秋、収穫の秋。今年も稲刈りの季節を迎えました。春にみんなで田植えをした田んぼでも、黄金色の稲が風に揺れています。放課後食育プログラム「あつまっ子ふるさと体験教室」今年度2回目と3回目のプログラムを10月3日（土）、10日（土）の2週にわたって開催しました。2回目の活動は、収穫祭と稲刈りです。収穫祭では、厚真産の食材（トマトやシイタケなどの野菜、あづま成吉思汗など）を使ったピザづくり。午後からは、農協青年部のみなさんと一緒に稲刈り体験をしました。ピザの生地に使った「春よ恋」という小麦粉の穂の実物を見せてもらったり、茶わん1杯分のお米の量を考えるクイズなどをして楽しんだあとはお待ちかねの稲刈りです。子どもも大人も真剣に作業をすること1時間半。約1反の田んぼに植わった稲穂を刈りとりました。稲刈りのあとは子どもたちが作ったピザをおやつにお互いの労をねぎらいました。



稲刈りの翌週は、あつま新鮮組が主催する厚真町のPRイベント・特産市で特産品の販売体験を行いました。厚真産のお米でつくったパンやシフォンケーキ、とれたての野菜、おふくろ味噌などの加工品を販売するお手伝いです。これまでの食育プログラムや、あつまっ子カフェといった町内で体験してきたことを活かし、大きな声でお客さんに声をかけたり、商品の良さをアピールしたり、予想以上にみんな一生懸命頑張りました。新鮮組の方からも「子どもたちが一緒にいてくれると、お客さんも立ち止まって目をとめてくれて良かった」と子どもたちのチカラが役に立ったと評価していただきました。子どもたちもやりきった達成感を感じていたように思います。こうした活動を通して、子どもたちのチカラを地域に還元する仕組みを作っていきたいと思っています。

